

あたりまえの幸せ

佐渡市立相川中学校 佐々木 美月

私はご飯が好きです。パンや麺も好きです。が、やっぱり毎日食べるのはご飯が良いなと思います。何の気なしに毎日食べているご飯について、改めて考えてみると、気づかされたことが二つあります。

一つは、ご飯と家族の関わりです。私の家では、電気炊飯ジャーでご飯を炊いています。が、たまに鍋で炊くことがあります。鍋で炊くと、炊飯ジャーとはまた違った味わいがあります。私はそれが好きです。ある日、いつもご飯を炊いている母が、

「みーちゃん、自分で炊いてみるよ。」と聞いてきたので、初めて自分でご飯を炊く機会ができました。お米とポウルをもらって、研ぐところから始め、水の量や火加減など、母に教えてもらいながら炊きあげることができました。夕食にそのご飯を食べた父が、「やっぱり鍋で炊いたお米は格別だね。」

と言、てくれたので、とてもうれしか、たで  
す。

私の家ではお米を作、ていますが、こんな  
おかずにもよく合う、とてもおいしいお米  
です。そのお米を、年に何回か遠くに住む親  
戚に送るのですが、そのたびに  
「毎回ありがとうね。おいしか、たよ。また  
送、てね。」

と、お礼の電話がかか、てきます。その電話  
に祖母はとても誇らしげに返事をしていて、  
それを聞いている私もとてもうれしくなりま  
した。

いっか、自分で種をまくところから収穫ま  
でしたお米を、母の助け無しに炊いて、家族  
を喜ばせることができるといいな、あと思いま  
す。また、そのお米を遠くに住む親戚に送り、  
「おいしか、たよ。」  
と言、てもらえる日が来ればいいなと思いま  
す。お米は日本の主食です。肉にも、魚にも  
合う、素晴らしい食品です。パンや麺もそう

なのでしょうが、種をまき、収穫し、加工し  
 て食べる、そうした過程の中で家族や親戚と  
 の繋がりを深めることのできるかけがえのな  
 い食品です。私はご飯が好きなので、ご飯を  
 主食にする日本に生まれてとてもよか、たと  
 思っています。ひよっとしたら、私がお飯が好き  
 なのは、ご飯を通してつながり、た家族や親戚  
 のおかげかもしれないとも思います。  
 もう一つは、私たちと食料との関係です。  
 これは、米やパンや麺などの主食に限ったこ

とではないのですが、今のように、私たちが  
 好きなものを食べて生きていられるというこ  
 とが、実はとても特別なことなのかもしれま  
 せん。今日もおいしいものをお腹いっぱい食  
 べられるという事は、日本が豊かな証拠で  
 す。これはとても幸せなことですが、時々、  
 豊かではない国のことを見聞きたり、考え  
 たりすることがあります。世界には、未だに  
 飢餓や貧困に苦しんでいる国があります。そ  
 こには、私たちと同じ世代の子ともかいるは

ずです。日本は自然が豊かで、その自然に  
 たり合った「お米」を主食として暮らして  
 きました。お米を大事にすること、自然を  
 大事にしてきたのだと思います。飢餓や貧困  
 に苦しむ国の人たちは、日本のような豊かな  
 自然と、それに合った主食がなかったのだら  
 うと思います。そんな子どもたちを救うため  
 の活動がたくさんあっても、私は今まであま  
 り興味をもたずにいました。お米について考  
 えている中で、貧しい国の子どもたちが、お

腹い、ぱい食べられるようになる手伝いをし  
 たいと思うようになりました。

私はお米が好きです。おいしいお米が食べ  
 られるこの世界も好きです。いつか、世界中  
 の子どもたちが、家族と一緒にお腹い、ぱい  
 おいしいものを食べることにできて、それが  
 「特別なこと」ではなく、「あたりまえの幸  
 せ」になっ、てくれる日が来ることを願っ、てい  
 ます。